

# 京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名

京丹後市

## 2. 平成24年度 行財政改革支援等特別交付金事業の個別評価について

支援区分		事業名・実施項目	
行財政改革推進枠		橋梁長寿命化事業	
事業着手前			
課題・現状	本市が管理する橋梁は全部で876橋あり、1970年代に建設された橋梁が多く、20年後には約7割の橋梁が老朽橋の目安となる50年を超えることとなり、修繕費や架替経費の集中が懸念されている。そこで、従来の対処療法型管理から予防保全型管理へ転換することにより、橋梁を長寿命化し費用の削減を図る必要がある。		
事業概要	現在、橋長15m以上の117橋については橋梁長寿命化修繕計画を策定済みであるが、橋長15m未満の759橋については橋梁点検が完了していないため、引き続き橋梁点検を行い、橋梁長寿命化修繕計画を策定する。		
期待される事業効果等	橋梁点検により基礎データを収集し、健全度及び架替の緊急性を把握するすることで、計画的で効果的な投資を行い、現在の橋梁機能と安全性を最少の費用でより長い期間保つことが期待できる。		
事業実績			
取組状況	橋長15m未満の橋梁点検が完了していないものについて、計画的に橋梁点検を行い、橋梁長寿命化修繕計画を策定する。(橋梁点検(橋長5m以上15m未満):平成23年度 80橋、平成24年度 116橋、平成25年度 116橋(予定)、橋長5m未満は平成26年度以降を予定)		
主な実績数値 (出来高数値等)	橋梁点検実施数 116橋(橋長5m以上15m未満)、橋梁点検業務委託料 5,016千円		
期待される事業効果等 に対する達成状況	達成	(左の理由)	計画的に橋梁点検を行うことができ、橋梁長寿命化修繕計画を策定するための資料とすることができた。
行革効果			
行革効果の考え方	<p>■橋梁架替経費 500,000千円</p> <p>①長寿命化を行わない場合 (20年間の修繕費 150,000千円+20年後の建設経費 500,000千円)÷20年 = 32,500千円/年</p> <p>②長寿命化改修を行う場合 (35年間の修繕費 350,000千円+35年後の建設経費 500,000千円)÷35年 = 24,286千円/年</p> <p>①-②を差し引いた単年度あたりの行革効果額 8,214千円                      ※長寿命化を行わない単年度工事費は長寿命化修繕工事の概ね75%で試算(10,000千円×75%=7,500千円)                      ※修繕により概ね15年延命化させることを想定</p>		

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度				
行革前(a)	32,500	32,500	32,500	32,500	32,500				
行革後(b)	24,286	24,286	24,286	24,286	24,286				
行革効果(a)-(b)	8,214	8,214	8,214	8,214	8,214				

(記載要領)

- 1 事業毎に調書を作成すること
- 2 「期待される事業効果等に対する達成状況」については、「達成」、「未達成」を記入し、その理由を右欄に記載すること。